



## 2013出だしよし

2学期の終業式は、体育館への入場時に私語があったり、式辞がきちんと聞けない人がいたりするなど、全体的に落ち着きのない式でした。2012年の最後を締めくくる式としてふさわしくありませんでした。

そして、昨日の3学期始業式。“やればできる詫中生”であることを実感しました。体育館入場後、私語があったためにやり直しをさせられた学級もありましたが、寒い体育館の中で、すべてのクラスが入場するまで静かに待つことができました。「校長式辞」も静かに聞けました。また、「校歌斉唱」も練習なしで臨みましたが、大きな声が体育館に響きました。終業式とは見違えるような始業式でした。

その兆候は、始業式前からありました。2学期よりも大きな声であいさつができた人、髪型がさっぱりした人、いつもは遅刻ギリギリなのに余裕を持って登校できた人など、新年になって新しくなった気持ちが行動に表れている人を多く見かけました。

この気持ちをいつも持ち続けていてください。2013年は、きっとすばらしい年になるはずです。

2学期終業式で、3年生には「受験生として当然勉強すること」、1・2年生には「宿題を自分の力で仕上げる」と1冊の読書、そして全体には「家の手伝いをする」と呼びかけました。全員がなにかの達成感を得た冬休みであったことと思います。

さて、式辞の代わりに、「老人の責務」（天空昇兵衛）という文章を紹介します。

昭和32年頃の話である。一級下のT君と私は、分校の狭い庭で球投げに興じていた。私の投げた球が左ヘスーとそれた。T君は懸命に追いかけて、運悪く鉄棒の柱へ衝突。額から大量の出血。私は青くなった。

運の良いことにその日は予防接種の日で、校医の先生がいられた。先生は、4針ほど縫って消毒し、笑いながら「大丈夫だよ、心配ないからね」と言いつつ、二人の頭をなでてくれた。スクーターの音を響かせて、先生は軽やかに消えた。T君も笑いながらスタスタと帰ってしまった。

私も家に戻ったが、すっきりしない。胸の奥底が痛む。私は決断し、2キロほど南にあるT君の家を目指す。謝りたい一心で…。「僕が悪いんです。本当にすみません」。涙を流しつつ、T君のお母さんに頭を下げた。「よく来たねえ。何にも心配ないよ。それにしても、よく来たねえ」。私にあめ玉の包みを渡し、「気を付けて帰るんだよ」と優しく背中を押してくれた。私は泣きながら、あめ玉をしゃぶりながら歩いた。晴れ晴れとした心で。

65歳になった今も、このキャッチボールの事故を忘れられない。T君の母親の慈愛に満ちた顔と言葉。校医の先生の配慮あふれる動き。つくづく思う。よい時代であったと・・・。

この文章から、真剣さ、誠実さ、正直さ、責任感、優しさ、思いやり、といった言葉が連想されます。こういう言葉をきちんと実践できる学期であり、詫間中であってほしいと願います。（※始業式式辞から）

### 学校評価アンケートから

前号で、保護者アンケートの結果の一部を紹介しましたが、同じようなアンケートを、教職員と生徒にも実施しています。その中から、先生の意見をいくつか紹介します。（裏面に保護者の意見を掲載しています）

- これまでどおり、SSTの協力も得ながら、粘り強い指導を継続するしかないと思う。授業では、真剣に授業を受けている生徒とのコミュニケーションが十分取れなかった。わからない問題に対して、丁寧に教える時間を確保していきたい。
- 自分が困ったときに、助けてくれる先生がいてありがたいと思う。また、誰かが困ったときに助けられる自分でありたい。さらにプラス効果が出るような自覚を持って取り組んでいきたい。
- 学年団を越えて先生方が協力できている。いけないことに対しては、「ダメ」と声を大にして指導することが、多くの生徒を守ると思う。これからも、学年を越えた協力態勢を大切にしていきたい。
- 教師が一丸となって、指導を徹底させていく必要があると思う。職員室内では、ホッとできたり、笑いがあったりするなど、先生方の雰囲気がいいので、みんなと一緒にがんばりたい。

## 【保護者の意見・感想】

- ◆ 制服姿でノーヘルや二人乗りで走ったり、ふざけた乗り方をしている生徒を見かけます。髪型やスカート丈やそで口が目立っています。保護者だけでなく、町内で見かけた方は同様に思っていることでしょう。
- ◆ きちんとできる子が多いと思いますが、「中学生は今どうすべきか？」と考えると、反している子が多いと思います。小学校ではできていたことが、中学生になるとできなくなるのはおかしいです。
- ◆ 昔と違い、「自分さえよければいい」という考えの子どもが増えているように思います。大人自体がそうなので仕方ない面もあるのですが、とても悲しいです。
- ◆ 授業やテストの邪魔をする生徒がいることを聞いて驚いています。そういう生徒は帰宅させていると聞きましたが、それでいいと思います。
- ◆ ヘルメットを着用していない子、二人乗りの子が目立ちます。学校帰りにコンビニで買い食いする子も多いと思います。先生方はがんばってくださっていますが、子どもや親の意識が低いように思います。
- ◆ 自転車の乗り方、制服の着方等について、気になることが多いです。授業参観のとき、すれちがう生徒の服装を見てびっくりしました。規則は規則です。義務教育の時に規則が守れないのなら、社会に出たときにもっと大変だと思います。「みんながしているからかまわない」と思うのは、まちがっています。
- ◆ 確かに素行の悪い子どもをよい方向に導くことは大切ですが、ほとんどはまじめな子どもたちです。もっともっとその子どもたちの力を使ったらどうでしょうか。まじめな子どもが辛い目をしたり、やる気をなくしたりしているように思えます。
- ◆ 先生も一人一人個性があり違った人間だけど、子どもたちに対する姿勢は一貫して同じであってほしいと願います。温かい気持ちで……。子どもを大事に思う親の気持ちは同じだと思うので、良いことも悪いことも知らせ、もっと親を巻き込んで子どもの指導をするべきだと感じます。
- ◆ 部活動をもっと熱心に行う時間と場所を子どもたちに提供してほしいです。子どもたちは一生懸命頑張ろうとしています。技術的な指導はできなくても、「がんばる」子どもたちを応援してあげてほしいのです。このままでは「がんばる気持ち」がなくなってしまうのではと心配です。部活をがんばれば、学習も素行もよくなると思っています。
- ◆ 昔のような教育は難しいと思いますが、悪いことやしてはいけないことをしたならば、先生はもっと叱ってもいいと思います。それに文句を言う人がいたら、その人が間違っています。
- ◆ 学校で何かあったとき、こまめに連絡していただけるので、子どもに確認しながら話し合うことができます。トラブルがあったときには、当事者の言い分を聞いた上で対応くださっていると安心していきます。
- ◆ 普通のことや普通でできる子どもであってほしいと思います。普通のことや理解できていないことがよくあるように感じられます。家でも、学校でも、まちがいを正していけたらと思います。
- ◆ 必死になって子どものために叱っている先生がバカにされない学校のムードづくりを期待します。そのためには、学校に関わるすべての人が、熱い気持ちで指導していることを本人たちに気づかせることだと考えます。粘って、粘って、粘ってあきらめない先生方でいてください。応援しています。
- ◆ 浦島デーの講演会で、岡田さんが最後に話していた小さな犯罪を詫中でも見かけます。例えば、部活でお菓子を食べるなどの小さな事を見過ごさずに、少しずつなくしていけば、もっともっとよい詫中になると思います。先生方もとても悩んでおられると思いますが、がんばってください。
- ◆ 学校を地域や保護者に公開したり、民生委員や少年育成センターとの連携を積極的に行ったりしていただきたい。浦島デーの授業を、保護者として参観してもらい立つことの方が多いです。家庭のしつけと学校の指導の両方から力を入れないとよくなりませんね。
- ◆ 浦島デーの講演会では、何人かの生徒は話を全く聞くことができず、先生がずっと横についていました。まるで、幼稚園の子どもを見ているようでした。保護者の出席数も少なく、そういう現状を知らない保護者もたくさんいます。多くの保護者がもっと出席できるような方法を考えるべきではないかと思います。
- ◆ 平日に学校を抜け出る生徒、テスト期間中にヘルメットなしで帰宅する生徒を見かけます。とにかく、ルールを守れない子どもが多くいます。これは学校での教育ではなく、家庭でのマナーの在り方だと強く感じます。親がもっと子供に目を向けられるような社会づくりが大事だと感じるが多々あります。
- ◆ SSTや先生方がサポートしていただいている感じが感じ取れるようになってきています。大変だとは思いますが、今度もこの努力は続けてほしいと思います。大人が真剣に向き合っていることに、子どもたちが気づいてきていると信じます。がんばってください。気づいたことは相談させていただきます。